

# 総合実習

## 目 的

看護チームの一員として看護を実践する中で、看護管理の必要性和専門職としての役割を理解し、自覚と責任感を養う。

## 目 標

1. 複数の患者を受け持ち、援助の優先度と時間管理を考慮して、安全・安楽に実践できる。
2. 看護チームのチームメンバーおよびリーダーの役割を理解できる。
3. 看護管理・病棟管理の実際について理解できる。
4. 夜間の療養環境と看護師の役割が理解できる。
5. 専門職として倫理的指針をもち行動することができる。

## 内 容

1. 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性
  - 1) 受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更、看護計画の実施と修正
  - 2) 援助実施の優先度の判断
  - 3) 適切な時間での実施
  - 4) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整
  - 5) 適時・適切な人への報告
2. 受け持ち患者の看護計画の実施
  - 1) 計画全体の把握
  - 2) 受け持ち患者に必要な複数のケアの実施・評価
  - 3) スタッフメンバーの協力を得て実践可能なケアの実施
  - 4) 記録・報告
3. 流動的環境の中での実践
4. その日のリーダーの役割と業務の実際
  - 1) 医師への報告・連絡調整

- 2) チーム及びスタッフへの連絡調整
- 3) 病棟外の部門との連絡調整
5. チームメンバー間の協力・行動調整
6. 多職種との協働
7. 継続看護の必要性
8. 看護管理・病棟管理
  - 1) 病院組織における看護管理
    - (1) 看護組織としての機能
    - (2) 看護理念
    - (3) 看護方式
    - (4) 病院提供機能評価
  - 2) 病棟管理者の役割と業務の実際
    - (1) 看護の質管理の実際
    - (2) スタッフ・看護学生の教育指導
    - (3) 安全管理・物品管理
    - (4) 他部門との連絡調整
    - (5) 看護部組織の中での報告・連絡・調整の実際
    - (6) スタッフの勤務調整
    - (7) 勤務時間管理の実際
    - (8) スタッフの健康管理
9. 夜間実習
  - 1) 夜勤体制の業務内容
  - 2) 夜間のチーム間の協力体制
  - 3) 夜間の病棟管理体制
  - 4) 夜間の療養環境
    - (1) 患者の就寝準備
    - (2) 睡眠中の患者の配慮
  - 5) 夜間の患者の安全確保の実際
10. 倫理的視点（看護者の倫理綱領）の意識化

## 方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
 

ねらい：総合実習のイメージ化を図り、グループワークを通して実習の準備性を高める。

  - 1) 多重課題グループワーク
3. 病棟実習
  - 1) 実習開始前週に、病院組織における看護管理の説明を受ける。
  - 2) 実習初日は病棟オリエンテーション（チームリーダー・その日のリーダー・メンバーの役割と業務・各勤務帯の業務）及び患者紹介を受ける。
  - 3) 実習中に、病棟管理について説明を受ける。
  - 4) 実習期間中、半日程度病棟師長と行動を共にし、看護管理の実際を見学する。

- 5) 実習期間中、その日のリーダーの行動を観察し、リーダーの役割と業務の実際について考察する。
- 6) 指導者の指導監督の下、複数受け持ち患者の看護を実践する。  
《対象の目安》
  - (1) 疾病経過・日常生活自立度に差がある患者
  - (2) 同じチーム内の患者
  - (3) 急変の危険性が高い患者は除く
- 7) 実習指導者の指示・監督の下、1日のスケジュール作成・援助の実施を行う。
- 8) 病棟の看護計画に沿った看護を、優先順位と時間を考えながら実施・評価・修正する。
- 9) 記録は、学生用カルテに記載する。
- 10) 看護チームの一員として、病棟カンファレンスに参画する。
- 11) 申し送り前に、患者の状態をその日のリーダーに報告する。
- 12) 看護場面を通して、安全管理の実際を体験する。
- 13) 夜間実習は、患者は受け持たず指導者に同行し、見学する。
- 14) 夜間のケアは、患者の安全確保のため指導者の監督の下実施する。
- 15) 実習期間中、テーマカンファレンスを実施する。
- 16) 実習終了後は、目的に沿って自己の評価と今後の課題について実習レポート用紙に記載する。

## 総合実習評価表

実習病棟 階 病棟 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

評価尺度

A：助言を応用し、だいたい1人でできる

C：同じことで繰り返し指導を受けてできる

B：指導を受けながらできる

D：同じことで繰り返し、指導を受けてもできない

網掛け部分は以下の評価尺度を使用。

A：述べられる

B：だいたい述べられる

C：少し述べられる

D：述べられない

評価項目	評価内容	評 定			
		A	B	C	D
複数患者の看護	1. 受け持ち患者の全体像を捉えることができる。	6	4	3	0
	2. 行動計画に基づき、受け持ち患者の優先度を考えながら援助を実施できる。	6	4	3	0
	3. 患者の変化に合わせて援助を考え実践できる。	6	4	3	0
	4. 患者の反応を捉え実施した援助の評価ができる。	6	4	2	0
	5. 看護計画の実施・評価・修正ができる。	6	4	3	0
	6. 患者の援助が安全安楽に実施できる。	6	4	2	0
	7. 個々の患者へ実施した援助を倫理的視点や対象の反応をもとに評価できる。	5	4	3	0
チームで協働する看護	8. 患者の状態や実施した援助について、事実を正確に判断・提案を含めて報告できる。	6	4	2	0
	9. 看護実践する上で、看護チームに相談・依頼できる。	6	4	3	0
	10. 看護チームのその日のリーダーの役割と業務の実際が述べられる。	6	4	3	0
	11. 多職種との協働や継続看護の必要性が述べられる。	6	4	3	0
夜間実習	12. 患者の状態と療養環境が述べられる。	3	2	1	0
	13. 患者の状態に応じた安全安楽な援助が述べられる。	3	2	1	0
看護管理	14. 病棟管理者の役割と病棟管理の運営と内容、他部門との調整・連携について実際の場面から述べられる。	5	4	3	0
		合計	76		

《態度》

項目			評価のポイント	A	B	C	D		
前に踏み出す力	1	主体性	・ 指示を待つのではなく自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組める	4	3	2	1		
	2	実行力 働きかけ力	・ わからないことをそのままにせず、タイムリーに指導者や教員、スタッフ、実習メンバーなどに確認し、解決に向けて取り組むことができる ・ 患者によりよい援助を実施するために、指導者や教員、実習メンバーなどに働きかけることができる ・ 積極的に技術を習得できる	3	2	1	0		
考え抜く力	3	課題発見力 計画力 創造力	・ 実習を客観的に振り返り、自己の課題を述べることができる ・ 課題解決に向けた案を複数考え、それを遂行するための準備ができる ・ 実習全体および日々のスケジュールを常に把握し、優先順位を考えて行動できる ・ よりよい援助の方法を探求し、取り入れることができる	5	3	2	1		
チームで働く力	4	発信力 状況把握力	・ 優先順位を考慮し、簡潔明瞭に報告・連絡・相談ができる ・ 自分のできること、できないことを判断し対象、実習メンバー、実習指導者、教員、スタッフなどの状況を踏まえた行動ができる	3	2	1	0		
	5	傾聴力 柔軟性	・ 他者の意見や立場を尊重できる ・ 指導者や教員、実習メンバーからの意見や助言を最後まで聞き、相手の意見を正確に理解できる ・ 相手にとって話しやすい状況をつくり、相手の意見を引き出している	3	2	1	0		
	6	規律性 ストレスコントロール力	・ 様々な場面で良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守ることができる ・ 周囲に迷惑をかけたとき、誠実に対応できる ・ チームの一員と対象への責任をもち、周囲の協力も得ながら心身の体調管理ができる	3	2	1	0		
	7	倫理性	・ 対象のプライバシーを守り、個人情報の保護に努めることができる ・ 適切な言葉遣いで、状況に応じた行動ができる ・ 対象を主体とした関わりになっているか常に考え行動できる	3	2	1	0	合計	/24

< 評定尺度 >

A : 少しの指導でできた

B : 指導を受けてできた

C : 繰り返し指導を受けながらできた

D : 繰り返し指導を受けて少しできた

実習指導責任者

担当教員

総合点